

平塚市下水道事業経営戦略

令和3年度 進捗状況報告書

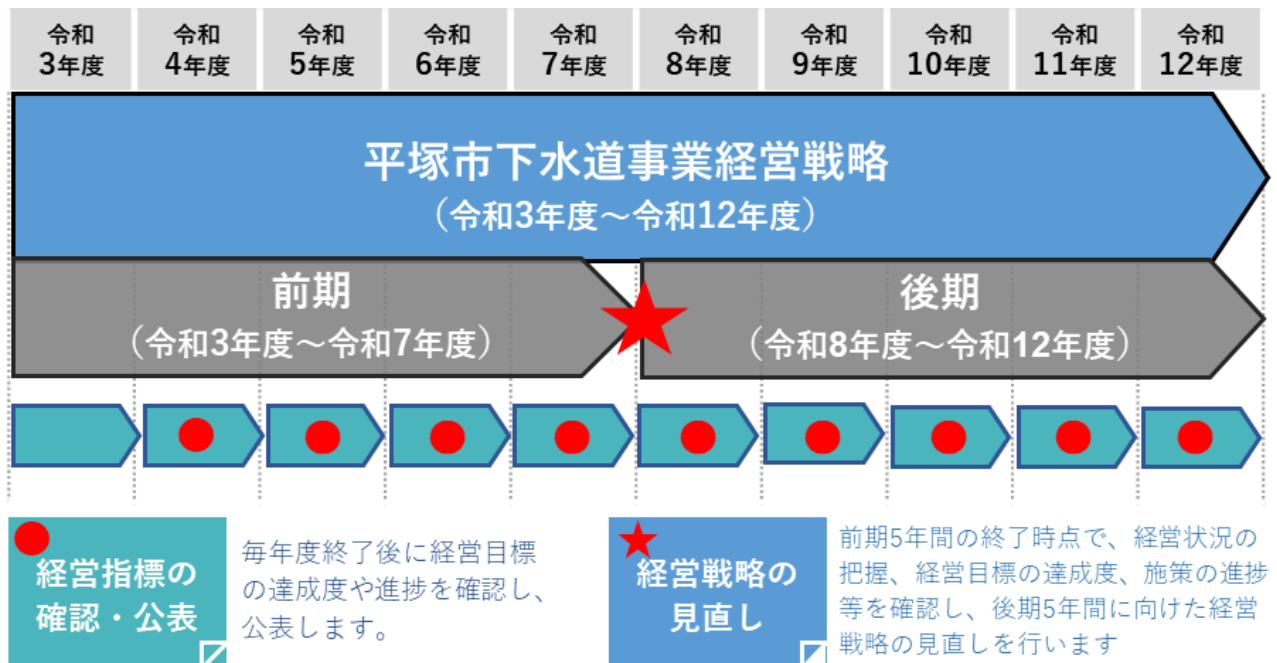
平塚市

はじめに

平塚市では、市民に下水道サービスを持続的・安定的に提供するとともに、中長期的な視点で経営環境の変化に対応し、一層の経営基盤の強化と収支が均衡する持続可能な経営を図るため、今後 10 年間に目指すべき方向と事業管理のあり方を示す「平塚市下水道事業経営戦略」（以下「経営戦略」という。）を令和 2 年度に策定しました。

この計画では、PDCAサイクルを確実に実施するため、毎年度終了後に、本経営戦略で掲げた経営目標の達成度や施策の進捗に関して確認を行い、公表するとともに、確認結果を基に次年度以降の施策の実施方法について改善を行うこととしています。

また、計画期間の前半 5 年を前期、後半 5 年を後期とし、中間年次の令和 7 年度に前期の目標達成度合いの分析を実施し、必要に応じた経営戦略の見直しを行います。



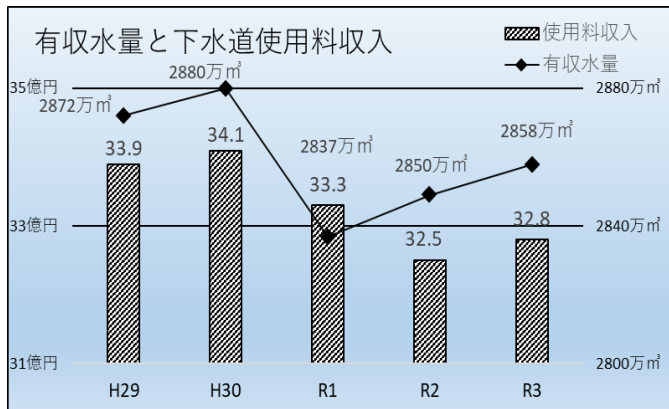
【経営目標の達成度確認方法】

毎年度終了後に、決算数値などから経営指標を算出します。その結果を計画の推計値や目標数値と比較し、達成度や進捗状況の確認を行います。

また、類似下水道事業体との比較（※）を行い、経営状況を把握します。

※経営戦略では、現状分析で行う比較対象団体として10団体（小田原市、茅ヶ崎市、川越市、所沢市、春日部市、柏市、流山市、八千代市、宝塚市、那覇市）を選定していますが、各団体の令和3年度の決算数値や経営指標の公表時期に差異があることから、比較データは総務省HPの「地方公営企業の決算（令和2年度）」に掲載されている各団体のデータを参考として使用しています。

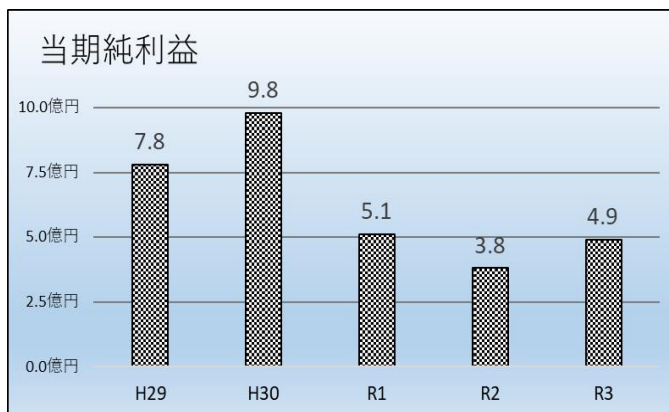
令和3年度 決算の状況



有収水量は前年度と比べて8万m³増加しました。累進逓増制の下水道使用料は、事業所排水量の増加により、前年度と比べて0.3億円増加し、32.8億円となりました。

<推計値との差>

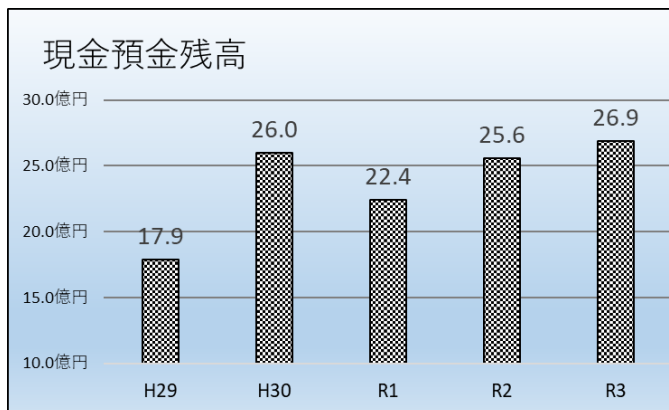
令和3年度推計値	令和3年度決算値	比較結果
32.6億円	32.8億円	+0.2億円 ○（良い）



当期純利益は、支払利息の減少や使用料収入の増加等により、前年度と比べて1.1億円増加し、4.9億円となりました。平成28年度の企業会計移行後6年連続で純利益を計上しました。

<推計値との差>

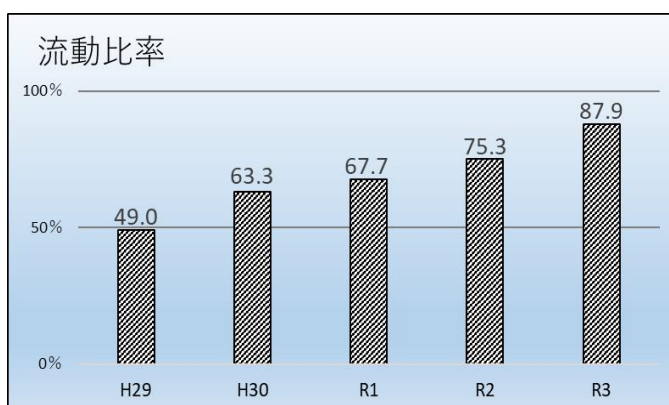
令和3年度推計値	令和3年度決算値	比較結果
2.0億円	4.9億円	+2.9億円 ○（良い）



現金預金残高は、支払利息の減少や使用料収入等の増加等により、前年度と比べて1.3億円増加し、26.9億円となりました。

<推計値との差>

令和3年度推計値	令和3年度決算値	比較結果
20億円	26.9億円	+6.9億円 ○（良い）

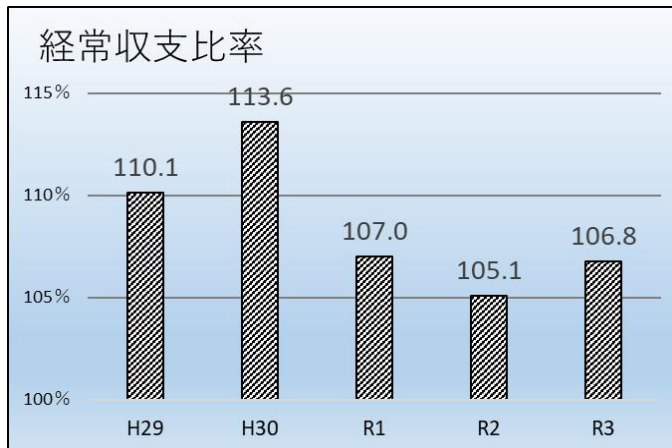


流動比率は、流動負債に対する支払い能力を示す指標で、100%以上が理想です。現金預金の確保と支払利息の減少により、比率は増加傾向にあります。令和3年度は前年度と比べて12.6ポイント増加し、87.9%となりました。

<推計値との差>

令和3年度推計値	令和3年度決算値	比較結果
65.9%	87.9%	+22.0% ○（良い）

（令和2年度の類似団体平均値：153.6%）

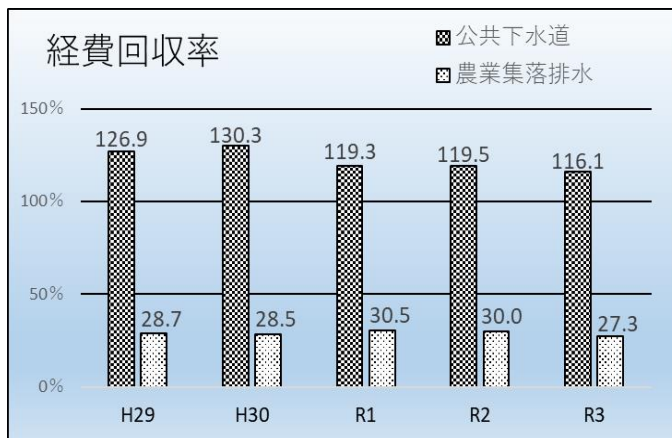


経常収支比率は、経常費用が経常収益によってどの程度賄えているかを示す指標です。令和3年度は費用が減少、収益が増加したことで前年度と比べて1.7ポイント増加し、106.8%となりました。

<推計値との差>

令和3年度推計値	令和3年度決算値	比較結果
102.7%	106.8%	+4.1% ○ (良い)

(令和2年度の類似団体平均値：106.0%)

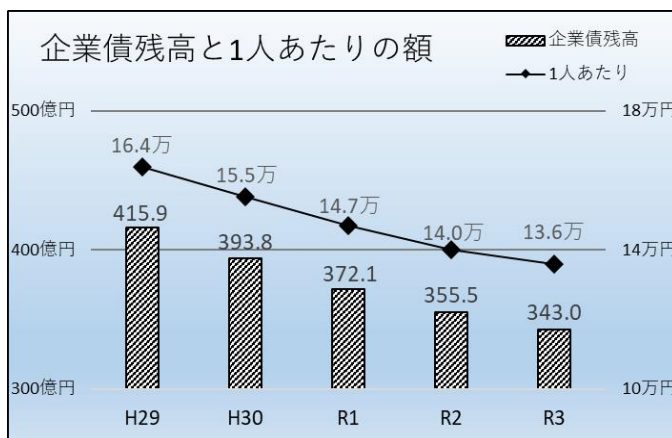


経費回収率は、汚水処理費用を使用料収入でどの程度賄えているかを示す指標です。公共下水道・農業集落排水ともに前年度と比べて使用料収入は増加しましたが、汚水処理費はそれ以上に増加したため、公共は3.4ポイント減少の116.1%、農集は2.7ポイント減少の27.3%となりました。

<推計値との差>

令和3年度推計値	令和3年度決算値	比較結果
115% (公共)	116.1% (公共)	+1.1% ○ (良い)

(令和2年度の類似団体平均値：98.1%)

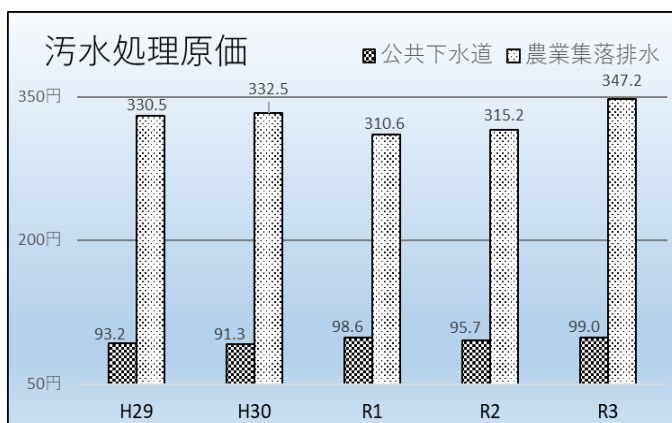


企業債残高は、計画的な償還により減少傾向にあります。令和3年度は前年度と比べて12.5億円減少し、343億円となりました。1人あたりの額については前年度と比べて0.4万円減少し、13.6万円となりました。

<推計値との差>

令和3年度推計値	令和3年度決算値	比較結果
355.1億円	343億円	-12.1億円 ○ (良い)

(令和2年度の類似団体平均値：238.5億円)



汚水処理原価は、有収水量1㎡あたりの汚水処理費です。公共下水道・農業集落排水ともに汚水処理原価は前年度と比べて増加し、公共は3.3円増加の99円/㎡、農集は32円増加の347.2円/㎡となりました。

<推計値との差>

令和3年度推計値	令和3年度決算値	比較結果
100.7円/㎡ (公共)	99.0円/㎡ (公共)	-1.7円/㎡ ○ (良い)

(令和2年度の類似団体平均値：119.4円/㎡)

平塚市下水道事業経営戦略 経営目標 進捗状況(令和3年度末時点)

活動指標

ヒ ト

「組織・人材」

基本方針②

下水道事業を担う人材の育成と効率的な業務環境づくり

	実績値 (令和元年度)	実績値 (令和2年度)	実績値 (令和3年度)	目標数値 (令和7年度)	目標数値との差	目標数値 (令和7年度)	目標数値 (令和12年度)
研修受講者数 (内外部、職場)	31人	44人	59人	60人	-1人	60人	60人
労働生産性 (営業収益/損益勘定職員数)	230,843千円	227,566千円	205,691千円	231,000千円	-25,309千円	231,000千円	231,000千円

※労働生産性：労働の成果を労働量で割ったもの。ここでは職員1人当たりでどれだけ成果を生み出したかを示す。
 ※損益勘定職員：下水道事業に所属している職員のうち、主に収益的収入及び支出に関する業務に従事している職員。

- 研修受講者数は、公営企業会計研修や下水道法改正説明会への出席など、前年度から15人増加しましたが、目標数値を下回る59人となりました。
- 労働生産性は、営業収益が令和2年度より増加しましたが、事業の整理と人員配置の見直しを行った結果、目標数値を下回る205,691千円となりました。

経営指標

カ ネ

「財務」

基本方針③

下水道事業の経営の効率化と経営基盤の強化

	実績値 (令和元年度)	実績値 (令和2年度)	実績値 (令和3年度)	推計値 (令和3年度)	推計値との差	目標数値 (令和7年度)	目標数値 (令和12年度)
経費回収率 (公共)	119.3%	119.5%	116.1%	115%	+1.1%	100%以上	100%以上
当期純利益	5.05億円	3.81億円	4.93億円	2.0億円	+2.93億円	黒字確保 建設改良積立1億円	黒字確保 建設改良積立1億円
流動比率	66.5%	75.3%	87.9%	65.9%	+22.0%	70%以上	75%以上

- 経費回収率（公共）は、令和2年度から3.4%減少しましたが、推計値及び目標数値を上回る116.1%となりました。
- 当期純利益は、令和2年度から1.12億円増加し、推計値及び目標数値を上回る4.93億円となりました。公営企業会計の適用開始から6年連続で純利益を計上しています。
- 流動比率は現預金残高の増加により、令和2年度から12.6%増加し、推計値及び目標数値を上回る87.9%となりました。

活動指標

情 報

「広報」

基本方針④

下水道情報の発信拡充による認知向上

	実績値 (令和元年度)	実績値 (令和2年度)	実績値 (令和3年度)	目標数値 (令和7年度)	目標数値との差	目標数値 (令和7年度)	目標数値 (令和12年度)
エンゲージメント率	12.3%	— ※R2年度はSNS投稿実績なし	7.2%	19.7%	-12.5%	19.7%	19.7%
イベント参加人数	200人 ※R1年度は中止(台風)のため、前回実績(H29)	— ※R2年度は中止(コロナ)のため、実績なし	— ※R3年度は中止(コロナ)のため、実績なし	500人	-500人	500人	500人

※エンゲージメント率：SNSに投稿し、閲覧された際の反応の割合（“いいね”、クリック、シェアなど）がどれだけあったかを計るもの。

- エンゲージメント率は、SNSの投稿件数が令和元年度より増加しましたが、目標数値を下回る7.2%となりました。
- イベント参加人数は、新型コロナウイルスの感染拡大防止により下水道ふれあいまつり等のイベントが中止となり、実績なしとなりました。

まとめ

令和3年度は、下水道使用料収入が前年度の落ち込みからやや回復し、4.9億円の純利益を計上するとともに、現金預金残高も公営企業会計に移行して以来最高となる26.9億円を確保することができました。また、企業債残高は、計画的に償還を進めることにより減少傾向にあり、支払利息の減少と現金預金の増加等により、流動比率は増加傾向にあります。その他の決算数値や経営指標も推計値を下回る項目はなく、下水道事業は安定した経営状況であったと考えています。

しかしながら、今後は人口減少等による下水道使用料の減少や、老朽化した下水道施設の維持管理費の増加等により経営環境はますます厳しくなることが見込まれます。また、新型コロナウイルス感染症やロシアによるウクライナ侵攻などの影響を受け、原油価格等が高騰し、電気料金の値上げや物価上昇を引き起こしている状況についてはしっかりと注視し、一層の経費節減に努めるとともに、適正な使用料のあり方について検討します。

今後も、引き続き毎年度の進捗管理を行うとともに、各経営目標等の達成に向け、取組みを強化します。また、計画期間の中間年次の令和7年度には、前期の目標達成度や施策の進捗状況の確認のほか、脱炭素化など新たな取組みも検討に加え、後期5年間にに向けた経営戦略の見直しを行います。

平塚市下水道事業経営戦略

令和5年2月

平塚市 土木部

下水道経営課・下水道整備課

〒254-8686 神奈川県平塚市浅間町9番1号

電話：0463-23-1111（代表）